

2014年度山本純一研究会・笠井ゼミ合同合宿

1) 概要

本大学の研究会である山本純一研究会と龍谷大学のゼミである笠井ゼミの間で合同の研究発表会と現地調査を行った。笠井ゼミの笠井先生はかつて山本純一研究会に所属していたことからこの合同合宿は行われるようになり、山本純一研究会はフェアトレードについて、笠井ゼミでは主にまちづくり、コミュニティについて研究しているため、互いの研究は全く同じというわけではないが、地域振興などの点で被る点があり、お互いの研究成果を発表し合うことで、普段の研究報告や、発表では得られない示唆に富んだ意見を得ることが出来た。

合宿では、山本純一研究会のメンバーが実際に龍谷大学のある滋賀、そしてフィールドワークの現地である垂井町に向かい、現地に宿泊し、研究発表や現地視察を行った。シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金は合宿を行う上で山本純一研究会のメンバーの交通費などに使われた。

2) 訪問先と現地調査期間

滋賀県大津市瀬田 龍谷大学

滋賀県垂井町

2014年8月1日～3日

3) 合同発表会及び現地調査報告

合同発表会 (1日～2日)

合同発表会では、龍谷大学の4回生と慶應大学の4年生が卒論に向けての研究報告を、そして慶應大学の2・3年生が期末論文・レポートを発表し、龍谷大学の3回生および、自主ゼミとして有志のメンバーによる調査報告も行われた。こちらは主に、各自が自身の研究内容

を一枚のポスターにまとめて発表するという形式のポスター発表によるものとなった。両日の発表を通じて、慶應・龍谷大学ともに、活発な議論が行われ、佛教大学である龍谷大学ならではの意見も聞くことが出来、普段のSFCでの発表では得ることが出来ない意見を聞くことが出来た。山本純一研究会の発表ではフェアトレード活動の一つである、バナナペーパーについての調査報告や、フェアトレードのビックテント方式についての調査レポートを紹介するもの、また日本の社会的責任投資について研究を行ったものなど、基本はフェアトレードについての研究が占めているものの、それにとどまらず多様な研究について報告がなされた。

龍谷大学の生徒の発表は自分の住む町の振興運動についての発表だったり、自分の家族のオーラルヒストリーについての発表だったりなど、身の回りについての発表が多かった。これは、身の回りにある問題意識を敏感に察知し、研究として取り上げる龍谷大学の学生の意識が感じられ、慶應大学の学生にとっても、問題意識の設定、リサーチクエスションの策定などにおいて示唆に富んだ発表だったといえる。

現地視察（2日・3日）

現地視察では、岐阜県垂井町に出向いた。垂井町はフェアとレートタウンとして知られており、フィールドワークの一環として、現地の方と交流を行った。

また2日目の夕食は表佐の公民館を利用して、龍谷・慶應大学だけの交流にとどまらず、現地の野菜をふんだんにつかった料理に舌つづみを打ちながら、砕けた雰囲気でありながらも、町の様子や今後の展望について有意義な意見を聞くことが出来た。

最終日となる3日目は、森の染織工房「アトリエのの」を訪問した。機械による均一で標準化された染色技術とは違い、現地で今も息づいている昔からの染色技術を実際に体験することが出来、龍谷・慶應大学の参加者がそれぞれ、ハンカチやスカーフなど各自思い思いのものを選び染物体験を行った。途中、昼食をはさみながら数時間ののちに出来上がった染物は、染める前に人それぞれが行った形や癖が反映されており、機械ではできない体験を行うことが出来た。